

明戸地区の共同作業には、ほぼ全世帯から34人が参加。公民館の屋根塗装は地区民3人が担当し、約150m²の屋根をこげ茶色に塗装。他のメンバーは手分けをして明戸川護岸の雑草の刈り払いに従事。丸2日間をかけた作業で公民館はもとより周辺環境の美化も達成できました



国道45号の歩道を除雪する、田野畑地区のボランティア活動



公園や海岸など公共施設の清掃も自分たちの手で。奉仕の心と交流の輪が広がります



平成17年9月に結成された、村内初の読書活動ボランティアグループ「ぐるんば」には主婦のほか教師、中高生までも参加。児童館や小学校などに出向き、絵本の読み聞かせや紙芝居の製作上演を行うほか、読書に関するイベントの企画や図書環境整備なども行うことにしています。他地域のグループとの交流や県内の図書イベントへの参加も行われています



沼袋地区で行われた敬老会の様子。地域住民の心がこもったイベントに参加者は大満足です。このような手づくり敬老会は、ほかの地区でも開催されています



協働は 実践から 〈各地の息吹〉

キーワード
【協働】
Cooperation
of labor



伝統芸能の甲地鹿踊りの練習場や冠婚葬祭、また婦人会活動の拠点として、新しい甲地公民館がどのように活用されていくか、住民はもろろん村内からも期待のまなざしが向けられています

かつて村のことは「役場がやるべき」と思われていました。しかし現在の田野畑では「自分ができることは自分で」と多くの人たちが考え始めています。その中の一つ、公民館が地域の協力により完成しました。

山あいに建つ甲地公民館は、平成17年12月に建設されたばかりの公民館です。木造平家建の外壁はベージュ色で焦げ茶の柱がアクセント。中は吹き抜けて約30坪の広さを持つ集会ホールを中心に10畳の和室や炊事場、倉庫が備わっています。消防車両や小型除雪機を格納する車庫も設けられています。

建築にあたっては、県と村からの助成を受けましたが、自治会でも加入する世帯がその費用を負担したのです。自治の通例である、施設建設は公運営管理は「民」を変える、新しい協働といえるものでした。

田野畑村では平成16年度、村の事業の一部を住民主体に移行する方針を打ち出しました。その中にあったのが、地域の取り組みに補助金を出す制度。老朽化が激しい旧公民館の処遇に頭を痛めていた甲地地区では、自治会役員の提出した建設計画案と資金負担に異を唱える住民はいませんでした。

もちろん前例のない事業だけに、クリアすべき問題もありました。土地の登

記では「甲地自治会」という地縁団体の法人格を申請し、地区民全員が権利を有する自治会として土地を取得。地域の実情に合い、かつ使い勝手のいい公民館をテーマに基本設計から見積もり、業者の選定も自分たちの手で行いました。意向は消防屯所の併設やステージを排除したフラットな集会ホール、直産施設としても使える軒下スペースなどの細やかな設計に現れています。

協働の動きは他にも始まっています。昨年3月の地区通常総会で公民館の改装を決めた明戸自治会では、自分たちでできることは自分たちで、同年8月に屋根のペンキ塗りを実施。また同地区には県が管理する明戸川が流れており、合わせて護岸の草刈りも行いました。この活動で得られた資金で自治会の活動もまかなわれました。

また、公共施設の清掃や美化活動を行う田野畑村女性団体協議会や羅賀体育会、大人はもろろん中高生も参加する読書活動ボランティアグループ「ぐるんば」など、地域の枠を超えたボランティア活動の輪も広がっています。

「協働」は決して難しいことではありません。地域を守り、ともに助け合いながら暮らすという集落本来の機能を復興すること。公民館の建設や改修、そしてボランティア活動…。田野畑の人々のさまざまな行動がそれを教えてくれます。